

0-7

A 大学病院外来看護師の新型コロナウイルス感染症に関する問診とアセスメントの現状

○田口 ひろみ、高田 邦子

獨協医科大学病院看護部

【目的】外来看護師が、感染問診票や問診を通じて情報収集とその情報を整理し、どのようにアセスメントしているのか現状を明らかにする。

【方法】2021年10月4日から2021年10月15日にA大学病院に所属し、外来に配属されている看護師85名に新型コロナウイルス感染症に関する問診票とアセスメントの現状を感染問診票に関する14項目、問診に関する13項目、看護記録に関する9項目にアンケート調査を実施し分析した。

【結果】感染問診票を用いた情報の確認、感染問診票回収後の問診、問診に関する看護記録について、実際にとっている行動と思いを比較した結果、過半数の項目で有意差を認めた。また、内科系診療科と外科系診療科で比較した結果、問診に関する項目で有意差を認めた。

【結論】1. 外来看護師は、限られた時間で効果的な感染防止策を実施するため多職種での情報共有と連携を実施している。2. アセスメントは、感染問診票から問診を行い現状判断し、感染予防策に繋げている。また、記録についての教育や記録の効率化により、アセスメントが明文化できる。

0-8

A 大学病院の救命救急センターに勤務する看護師のエンゼルケアの実施状況と大切にしていること、悲嘆する家族に対する思いと関り

○横塚 美紀、中田 哲也、神馬 千登勢

獨協医科大学病院看護部

救命救急領域では、事故や慢性疾患の急性増悪により、短期間のうちに死のプロセスを辿る患者もいる。家族に一番近い存在で寄り添う看護師の役割は重要である。本研究では、A大学病院救命救急センターに勤務している看護師47名を対象に、悲嘆する家族に対する看護師の思いと関わり、エンゼルケアの実施状況と大切にしていることを明らかにすることを目的としている。

調査の結果、35名から回答を得ることができた。分析の結果、悲嘆する家族と関わる看護師の思いとして3つのカテゴリ、患者が亡くなり悲嘆する家族への関わり方として5つのカテゴリ、エンゼルケアを行う際に大切にしていることとして3つのカテゴリが抽出された。またコロナ禍でのエンゼルケアの現状としては、感染拡大防止による制限がある中で家族の希望に添えるように、感染対策を行い家族に寄り添いケアを行うことができていた。

悲嘆する家族と関わる際、家族の反応に合わせた対応が必要であり、エンゼルケアを行う際には、家族の思いが尊重できる関わりが大切である。